

2005年 5月 10日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション  
代表取締役社長兼 COO 森本昌義  
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

## 中学生のテレビ視聴は平均 2 時間 15 分、学習時間は平均 1 時間 メディア接触も学習の悩みも増える中学時代、保護者との関わりが重要 ～ 第 1 回子ども生活実態基本調査、結果速報 ～

株式会社ベネッセコーポレーション(代表取締役社長兼 COO: 森本昌義、本社: 岡山市、以下ベネッセ)のシンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」では、日本において子どもの学力向上への議論が深まる中、2004 年 11～12 月、小学校高学年から高校 2 年生まで 14,841 名を対象に、生活や学習に関するアンケート調査を実施しました。

本調査では、各学年共通で生活習慣やメディア接触状況、親子関係、学習意識・行動などについて幅広く聞いています。生活実態が小学生から高校生でどのように変化するのかをとらえたり、学習意識・行動が生活とどのように関連しているのかをみたりできるのが、本調査の特徴です。

メディア接触状況を見ると、中学生は「テレビ視聴」時間が 1 日平均 2 時間 15 分と小学生、高校生より長くなっています。「テレビゲーム」時間は、中学生の平均時間は 1 時間と小学生とほぼ同じですが、2 時間以上の割合は 24.9%と小学生、高校生より多くなっています。高校生では「テレビゲーム」時間は減少する一方、携帯電話の所持率が中学生 45.3%に対し高校生 92.8%と急増しており、学年とともに利用メディアの多様化が見られます。

保護者との会話状況は、小学生から高校生まで会話量に大きな変化は見られず、母親と会話する割合が父親との割合をすべての時期で上回っています。会話内容は学年とともに変化が見られ、「ほめる」「しかる」から「口出しをする」「考えをおしつける」などへ否定的な色彩が強まります。

一方、自宅での「学習時間」を見ると、平日の 1 日平均時間は小学生 52 分、中学生 1 時間 1 分、高校生 1 時間 2 分と小学生から高校生にかけてほぼ横ばいですが、中学生からは時間をかける層とかけない層の二極化が進行しています。学習への取り組み意識では、中学生段階から「今まできちんと勉強しておけばよかった」「上手な勉強の仕方がわからない」「勉強しようという気持ちがわからない」など悩みが急増します。

メディアとの接触が増加し、学習への悩みも増加する中学時代に、保護者がどう関わり、サポートするかが、その後の学習行動やメディアの活用に重要な影響を与えられます。

ベネッセは、教育事業だけでなく、本調査をはじめとした教育調査研究活動を通して、家庭教育や学校教育の充実に寄与していきたいと考えています。

### 1. 第 1 回子ども生活実態基本調査の概要

調査目的	子どもの生活全般および学習について、意識や実態を捉える。今後も定期的な実施を予定。
実査時期	2004 年 11～12 月
調査対象・方法	小学 4～6 年生 4,240 人、中学 1～3 年生 4,550 人、高校 1～2 年生 6,051 人、合計 14,841 人 全国の大都市、中都市、郡部から市区町村の人口規模・人口密度を考慮した有意抽出法。
調査企画分析メンバー	上智大学・武内清教授 / 中央大・古賀正義教授 / 筑波大・桜井茂男助教授 / 目白大・黒沢幸子教授 / 首都大学東京・榎野葉月助手 / 上智大・浜島幸司院生 / 東大・元森絵里子院生 / ベネッセ教育研究開発センター・木村治生教育調査室長、鷲尾奈都研究員、青柳裕子研究員、朝永昌孝研究員

## 2. 調査結果概要

### メディア接触状況と保護者との会話

図1：テレビやビデオ（DVD）を見る時間／テレビゲームで遊ぶ時間（速報版 4p.）

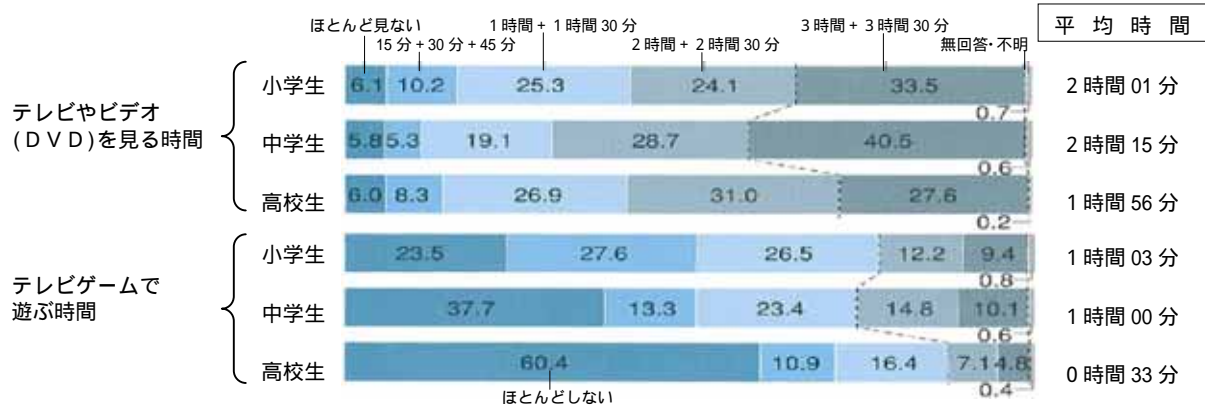


図2：父親・母親との会話（速報版 8p.）

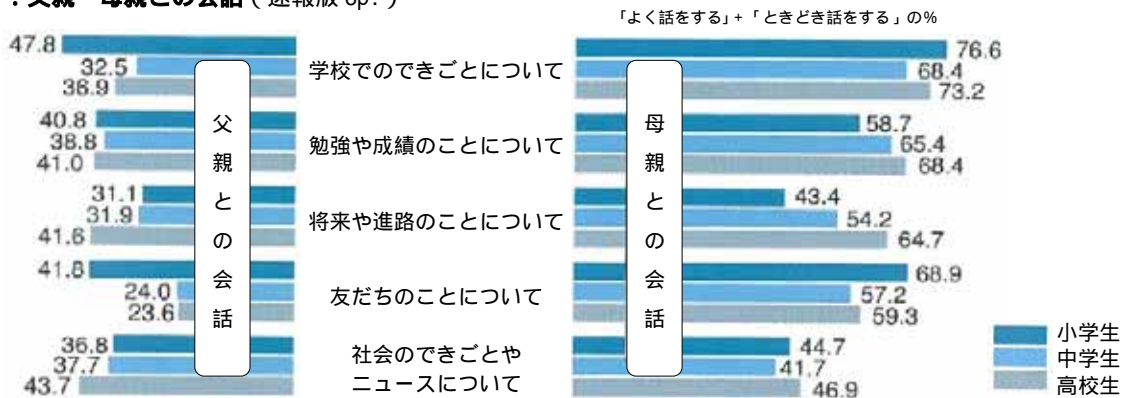
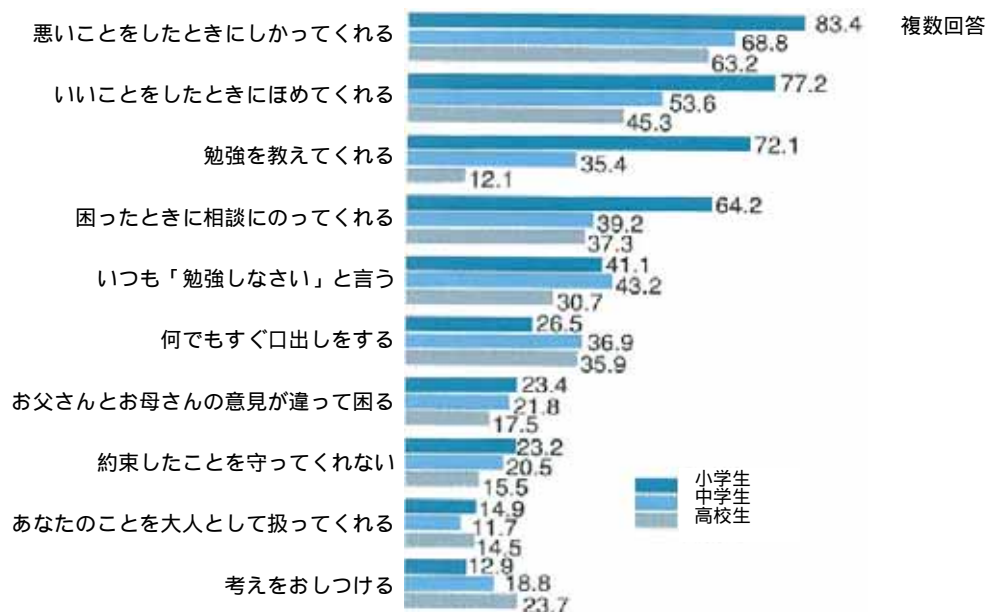


図3：親との関わり（速報版 8p.）



## 学習時間、学習意識の学年推移

図4：平日の学習時間（速報版 12p.）

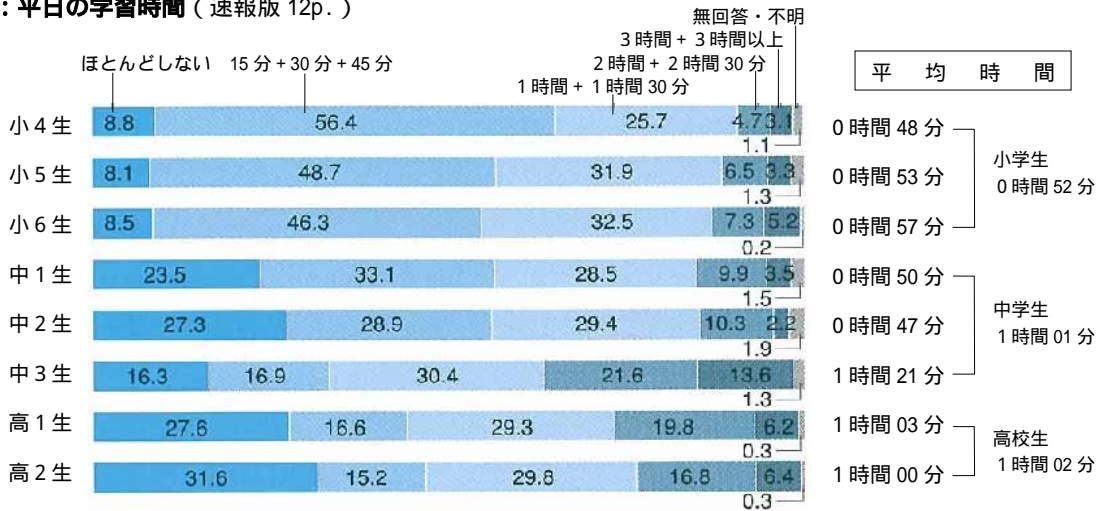


図5：学習の取り組み方（速報版 13p.）

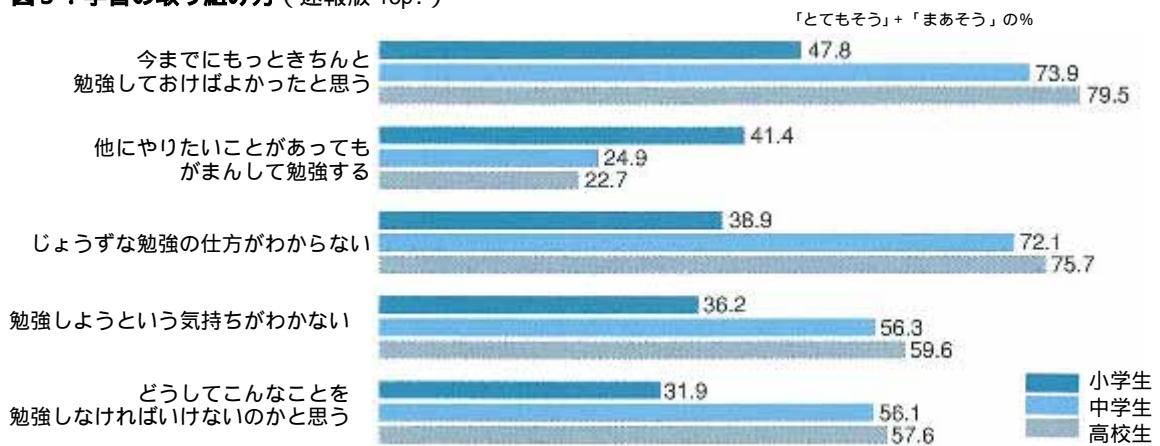


図6：得意なこと・苦手なこと（速報版 15p.）

